

1. 前回審議会のふりかえり

別紙 2

No.3回答

50mm以下について管路を事後保全を採用した場合の管路事故への対応

1.事後保全についての基本的な考え方

φ50mm以下の管路を事後保全とする場合、漏水事故が増加すると考えられます。漏水事故の件数は、φ50mm以下の管路延長と文献資料の事故率から算定します。

2.老朽化の予測式

将来の管路の事故率は、水道技術研究センターの報告書によると、以下の式で算定できます。

管路の劣化式（VP管）

$$y = 0.8 \times 1.27 \times 10^{-5} \times t^{2.907}$$

y：推定事故率（件/km/年）

t：経過年数（年）

※ポリエチレン管の劣化式は、算定されていないため、樹脂製の塩化ビニル管（VP管）の劣化式を使用します。

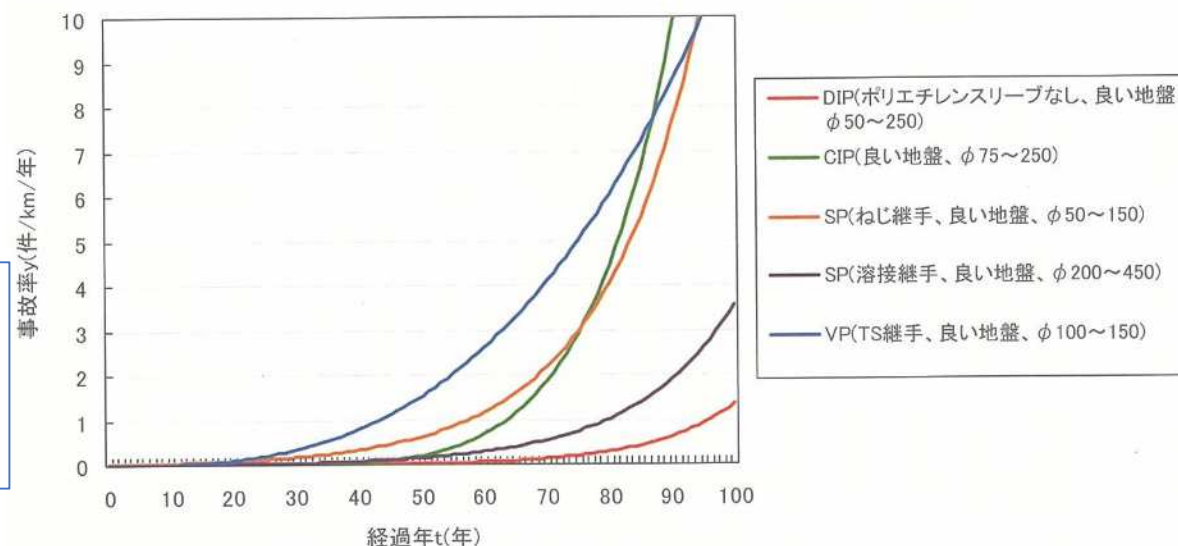


図 2.5.2 機能劣化予測式の例

出典：次世代の水道管路に関する研究(PipeStarsプロジェクト)
報告書、平成26年3月

1. 前回審議会のふりかえり

別紙 2

No.3回答

50mm以下の管路を事後保全を採用した場合の管路事故への対応

3.阿久比町における管路の事故件数の予測

今後、 $\phi 50\text{mm}$ 以下の事故件数を算定すると、以下の通りとなります。
 管路の事故件数は現状よりも増加しますが、今後10年間は現在の体制で対応可能であると判断します。将来の体制については、管路の事故件数の推移を注視しながら、適切な維持管理体制を検討します。

